

2014年7月24 日

財務大臣 麻生太郎様

神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会 共同代表
大橋智子(大橋智子建築事務所)
上村千寿子(景観と住環境を考える全国ネットワーク)
酒井美和子(デザイナー・まちまち net)
清水伸子(一般社団法人グローバルコーディネーター)
多田君枝(『コンフォルト』編集長)
多見貞子(たてもの応援団)
日置圭子(地域文化企画コーディネーター・粋まち代表)
森桜(アートコーディネーター・森オフィス代表)
森まゆみ(作家・谷根千工房)
山本玲子(全国町並み保存連盟)
吉見千晶(住宅遺産トラスト)
メール info@2020-tokyo.sakura.ne.jp
ファクス 03-6380-8812

**新国立競技場建設計画は国税を無駄に使うため、
財務相の指導のもと、見直すよう要望いたします。**

私ども「神宮外苑と国立競技場を未来に手わたす会」は、昨年10月に地域で文化財の保存活用やまちづくりに関わってきた有志が立ち上げた会です。賛同者は30,000人以上、中には日本の知識人が多数含まれており、文化勲章、文化功労章受章者もおります。この9か月あまりさまざまな分野の専門家をお招きして公開勉強会を開催し知見を深めて参りました。その結果、独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC）が進めている新国立競技場建設計画は、日本の将来に大きな禍根を残すことが明確になりましたので、計画の見直しを各方面に働きかけて参りましたが、問題の解決には至っておりません。

特に新国立競技場の問題点は、次の2点に集約できます。

**1 国立競技場はスポーツ施設でありながら、民間のショービジネスのための過剰設備を備えるため、
過大な建設費と維持費をかけることは本末転倒です。**

JSCは収益を上げるためと称して、ショービジネス目的に競技場全体に屋根をかけ、中央を可動幕としています。本来陸上競技、サッカー、ラグビーなどはアウトドアスポーツ

ですから、屋根は観覧席にあればよいことです。全体を覆ってしまうと、競技場は巨大な温室と化して空調が必要となり、必須の天然芝の育成のために送風機を 10 台回し、太陽光に代わる照明をあてるなど、悪循環ともいえる重装備と巨額の建設費用がかかり、次世代への大きなツケとなつてのしかかります。この装備を備えても天然芝の育成の保証はありません。

コンディションの良い競技場にするには、ショービジネスは最低限の回数にとどめるべきで、全天候型にしなければ建設費も維持費も大幅に抑制できます。

「参加と合意形成研究会」の試算では、屋根をつけることにより、民間のコンサート 1 回につき、3.4 億円の国税が投下されることとなります(別紙参照)。

2 IOC のオリンピックムーヴメントアジェンダ 21 の高邁な精神に沿って計画を見直せば、問題は解決できます。

IOC アジェンダ 21 は、1999 年のリオの環境サミットののち IOC が策定した行動計画で、招致都市も遵守を要求されています。(以下に抜粋)

3. 持続可能な環境維持開発のためのオリンピックムーブメント行動計画では、

3.1.6 人間の住居環境および居住

競技施設は、土地利用計画に従って、自然か人工かを問わず、地域状況に調和してとけ込むように建築、改装されるべきである。

3.2.2 環境保全地域および地方の保護

スポーツ活動、施設やイベントは、環境保全地域、地方、文化遺産と天然資源などの全体を保護しなければならない。

3.2.3 競技施設

既存の競技施設をできる限り最大限活用し、これを良好な状態に保ち、安全性を高めながらこれを確立し、環境への影響を弱める努力をしなければならない。

既存施設を修理しても使用できない場合に限り、新しくスポーツ施設を建造することができる。

新規施設の建築および建築地所について、このアジェンダ 21 の 3.1. 6 節を遵守しなければならない。これら施設は、地域にある制限条項に従わなければならない。また、まわりの自然や景観を損なうことなく設計されなければならない。

とあり、これを遵守すれば、地域の風致を壊すような巨大な競技場は建ちません。

私たち日本人は、昔から「もったない」というモノを大切に使い続ける美風をもっています。海外でもベルリンの 1936 年のオリンピックスタジアムをはじめとして歴史あるスタジアムを改修してオリンピックやワールドカップ会場として使っております。建築家の伊東豊雄さん(プリッカー賞受賞)も「改修は工期も工費も少なくてすむ。およそ新築の半額でできるだろう」と言っており、ここで、現国立競技場の改修に方針を転換すれば、国税の支出の無駄を省き、アスリートや国民に喜ばれる競技場になることは間違いありません。

計画中の新国立競技場は、サブトラックが無いにもかかわらず建設費は 2000 億円を超える上、2019 年 9 月開催のラグビーワールドカップに間に合わせるには、危険を伴う工事となることが予想されます。(同じ建築家のソウル東大門デザインセンターは工期・工費とも当初の二倍以上かかりました。)

私たちは、2020 東京オリンピック・パラリンピックを当初の招致目的の「東北の震災被害から立ち上がる人々を勇気づける」ものにする、そのためにも東北への資材・人材を奪わない、多くの人々が喜んで迎えらるよう、無駄なお金を掛けない心のもったものにしたと願っております。

すでに財務省主計局では平成 25 年 10 月、「オリンピック・パラリンピック関係資料」として、諸外国、長野冬季五輪の税金の無駄遣いについて、示唆に富む資料を出しておられます。ここで書かれている懸念はまさにいま現実のこととなっております。

どうか、新国立競技場を文科省まかせにせず、納税者の納得のいくものとしてください。

大臣のリーダーシップのもと、新国立競技場計画の見直しのため、名誉あるご英断にご期待申し上げます。

以上

追伸：要望の結果については、同封の返信用封筒にてご回答くださいますようお願い申し上げます。